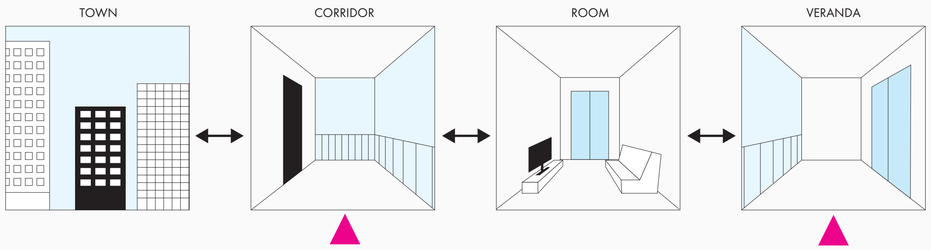
提　案　に　向　け　て

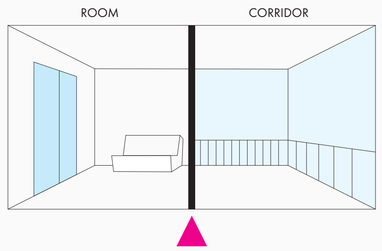
1　外　と　の　接　続　に　つ　い　て

通常、集合住宅では、街⇄共用部⇄住戸といったシークエンスがある。そして、基本的には住戸の末端部にはベランダやバルコニーといった外部空間がある。街と住戸を接続する共用部、そして住戸が持つ外部空間は外と接続するきっかけである。しかし、現在のそれらは、住戸との関係性は希薄である。この、外と接続するきっかけである外部空間や共用部を生活の場の一部として捉える構成を考えることができれば住戸は開かれたものになるのではないか？



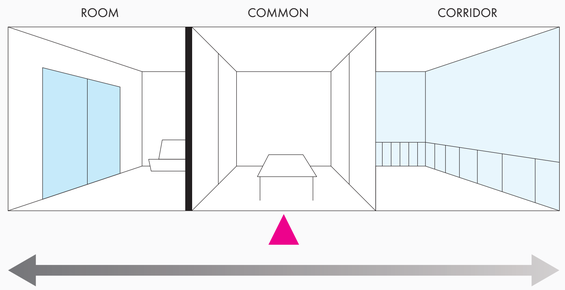
2．共　用　部　に　つ　い　て

集合住宅における共用部はエントランスホールや階段、EV、廊下といった、各住戸に辿り着くための通過動線であり、そこに住戸と共用部の関係性を見出すことは難しい。この、共用部の在り方を捉え直すことでそれらの関係性をときほぐすことができれば、住戸は開かれたものになるのではないか？



3．公　共　性　に　つ　い　て

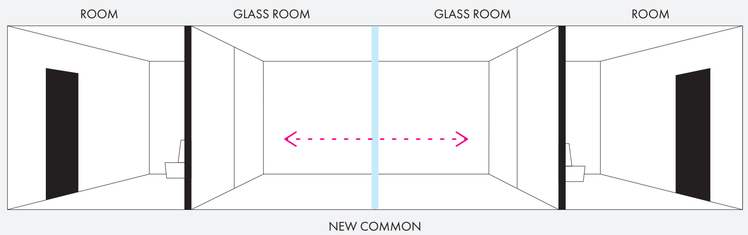
コロナ禍において直接的な人々の交流が容易ではなくなった今、2.に対する解決策として住戸と外をグラデーショナルに接続してきたコモンスペースは説得力が弱くなってしまっているのではないかと思う。公共性の在り方を捉え直すことで新しい開かれ方になるのではないか？



提　案

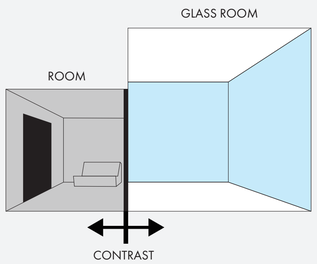
1．接　続　、　共　用　部　、　公　共　性

接続、共用部、公共性の在り方を捉え直した際に、末端部としての外部空間の屋内化、そしてその屋内化した空間を他の住戸のそれと接続することが良いのではないかと考えた。住空間はプライバシーが確保された箱として用意しつつ、ベランダのような外部空間をガラスで囲い込み内部空間化（グラスルームと呼ぶ）し、その空間を他の住戸のそれらとぶつけ合うということである。このような構成をとることで、居室というフィルターを通して向かうグラスルームは濃密なプライベート空間でありながら周囲に対して開かれているため、自分とは無関係な他人のアクティビティに影響を受けながら生活をすることになる。つまり、空間を介して他人と交流することになる。そして、この間接的な交流は新しい公共性となる。



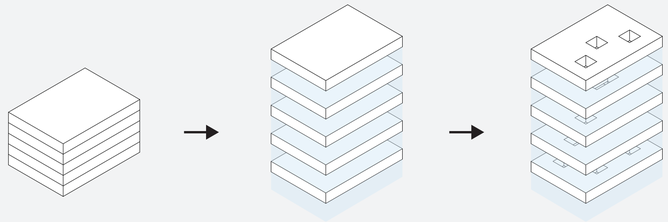
2．空　間　の　在　り　方

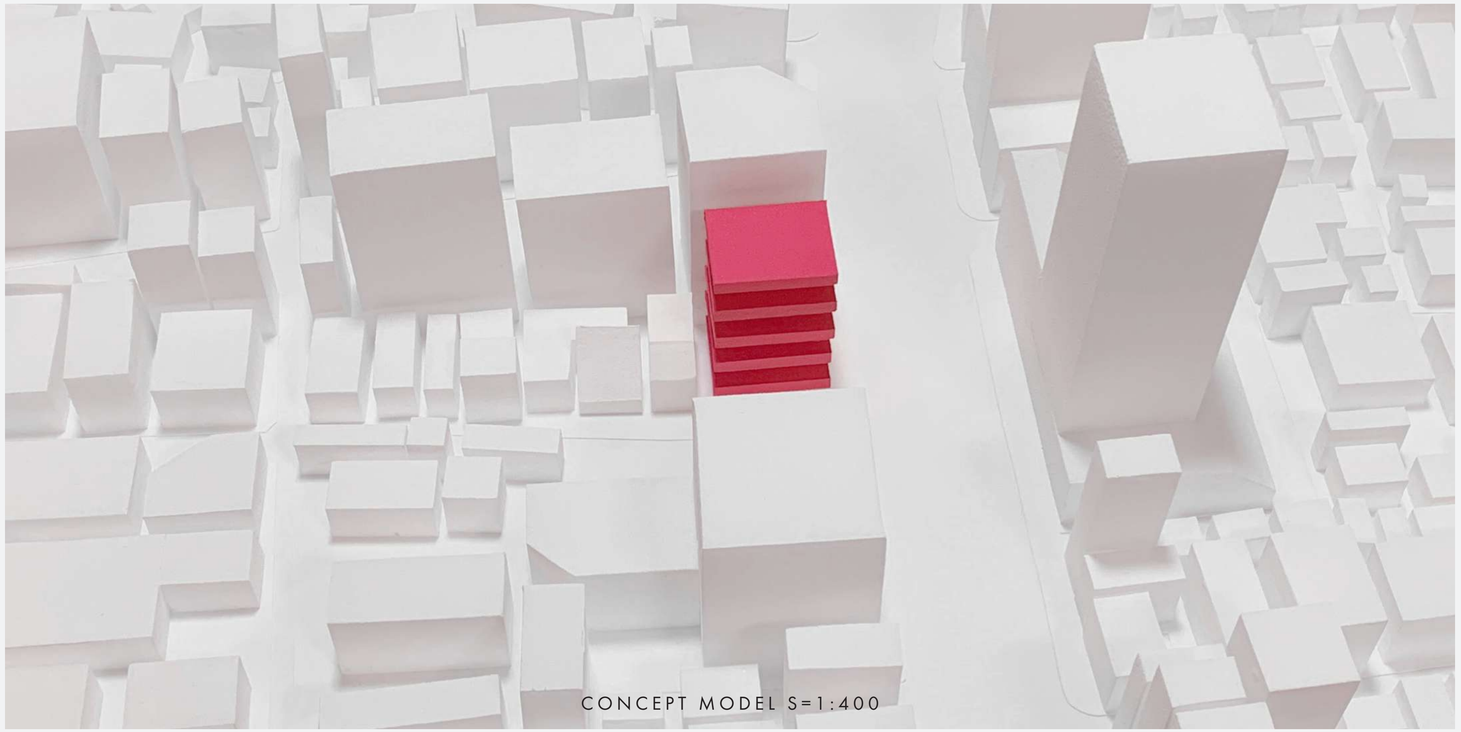
プライバシーが確保された居室と、グラスルームは、全く性質が異なる。これらをグラデーショナルに接続してしまうとプライバシーが担保されない、あるいは開かれた場が閉じたものになってしまう可能性がある。そこで、これらの空間にさまざまな対比軸を持ち込むことで空間を切り分ける。具体的には開閉、明暗、広狭、騒静といったものである。



3．お　お　ま　か　な　構　成

①住戸が詰まったボリュームを敷地いっぱいに配置する。
②住戸のボリュームに隙間を開け、その隙間にグラスルームを挿し込む。
③住戸のボリュームにところどころヴォイドを開け、上下階を接続する。




CONCEPT MODEL S=1:400